

三宅一生+Reality Lab. (リアリティ・ラボ) では、幅広いものづくりの可能性に向かい、「デザイナーとしていま何をすべきか」を探索しています。

頭で様々に考え、手を動かしながら行っている活動の一つが、再生素材をより魅力的なものとして表現する研究です。「陰翳 IN-EI ISSEY MIYAKE」の和紙にも見えるシェードは、ペットボトル再生繊維の不織布に改良を施したもの。そのかたちは、手作業の「折り」でつくられます。

精緻な手の技を活かした造形はそのまま立体として自立し、堅牢性を備え、折りたたむことができる構造です。

灯具はイタリア、アルテミデ社によるオリジナル。

光の濃淡やニュアンスも大切に、影に対する日本の伝統的な美意識も重ねたプロジェクトは、同社から製品化されています。

陰翳のあやと美。その明かりを本展で体感ください。

三宅一生+Reality Lab.

陰翳 IN-EI ISSEY MIYAKE

平面から立体へ。螺旋状に回転しながら姿を現わすのは、メンドリ、モグラ、ハコフグ、フクロウ…。

陰翳がもたらす明かりの濃淡が、現代の生活空間を照らしだす。

「…美は物体にあるのではなく、物体と物体との作り出す陰翳のあや、明暗にあると考える」 谷崎潤一郎『陰翳礼讃』

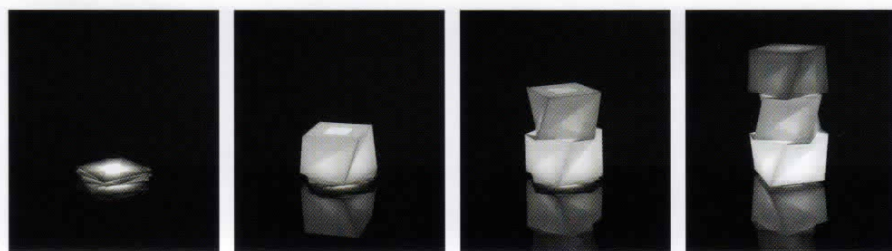


photo by Hiroshi Iwasaki



photo by Masaya Yoshimura

三宅一生+Reality Lab.

三宅一生は1970年に三宅デザイン事務所を設立、1973年よりパリコレクションに参加。伝統的な職人技と先端的な技術を駆使し、既成概念を打ち破るデザインを行っている。活動の根底には、「人々に感動や喜びを与える、快適な日常のためのものづくり」という考えがある。2007年に三宅が設立したReality Lab. は、ものづくりの未来を探る研究開発チーム。テキスタイルエンジニアの菊池学とテクニカルエンジニアの山本幸子を主軸メンバーとし、若手スタッフを含みながら、ものづくりの可能性を探索している。2010年に「132 5. ISSEY MIYAKE」、2012年には「陰翳 IN-EI ISSEY MIYAKE」を発表。

■ 記念トークセッション／レセプションのご案内

出演 Reality Lab. (リアリティ・ラボ)

2014年5月15日 [木]

記念トークセッション

18:30-19:30 (無料・要申込)

レセプション

19:30-20:30

定員 100名 (参加無料・要予約・先着順締切)

*記念トークセッション／レセプションの

お申込・お問い合わせは電話にてお願いいたします。

011-261-3311 (代表) 受付時間 平日11:00-18:00

<http://www.grand1934.com/gallery/>



SAPPORO GRAND HOTEL
by GRANVISTA

札幌グランドホテル 〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西4丁目
Tel.011-261-3311 <http://www.grand1934.com>